

朝が苦手で、中高とかななか朝から授業に出られず、登校に苦労していた。そして今年高校の最

終学年を迎えることになった。思い起こせばお母さんに連れられて、朝なかなか起きられないと相談にみえたのは彼女が中学に入ってからすぐのところだったなあと分厚くなったカルテを見て思った。学年が進むうち、定期的な通院をしなくてもよくなっていた。そんな彼女が久しぶりにお母さんに連れられて、少し不穏な感

月経が不順

つなぎ合わせると、修学旅行から帰ってきてから、規則的だった月経が止まりそのことを知った母親が、ビックリ仰天でとにかくいろいろと相談に乗ってもらっている僕のところへと来てくれたよつだ。

まず彼女と話をすることにし、状況を聞いた。

「もしかして少し乳房が張っている感じはない

じて来診した。

「なにがあったの?」

と僕が尋ねると「お母さんが全然私のこと信用してくれないの」とブンブンしている。おやと思いつ顔なじみになっている母親に顔を向けると、「修学旅行に行かせたら妙なことになって帰ってきたんですよ。この子は!」とこれまた怒っている。

2人の断片的な話しを

?」と僕が一つ質問した。

彼女はつなぎ、乳房から分泌物があることに気が付き、母親に相談して大騒ぎになったよつだ。

僕は彼女が乗り物嫌いであることを知っていたので、乗る物酔いの薬を飲んでいたかを尋ねた。え?関係あるの?」と彼女は意外そうな顔をした。

再びお母さんに診察室に入ってもらい、「吐き

気止めや乗り物酔いの薬はプロラクチンというホルモン分泌を刺激する働きがあり、ちょうど赤ちゃんが生まれるとすぐにおっぱいが出るようになるのと同じ状況がつかられ、乳房が張り月経は止まるよつになる。薬をやめれば元に戻る」と説明した。

月経が止まった理由と薬をやめれば状況は改善することを理解してもらい、あとは親子の信頼関係の修復をしなくてはと思った。僕はいろいろな介入の方法を思いついたが、ここではお母さんにアプローチすることにした。そして自分の心配をお子さんにぶつける前に、言葉にしてお子さんへの信頼を伝えることを勧めた。僕はこのことをきっかけにもっと親子の絆が深まればよいなと思った。

(三愛病院心療内科医師
・東邦大学医学部教授)

